

環境
プロジェクト

矢崎総業
「ソーラーシステム」



矢崎総業
環境エネルギー機器本部
環境システム事業部
事業推進部
庄子 努部長

矢崎総業が太陽熱利用に取り組んできた歴史は古い。1974年、矢崎実験ソーラーハウス「太陽の家」において、世界で初めて太陽熱による冷暖房に成功した。その後、需要が急拡大し、ピーク時には全社で年間約80万台を出荷していたという。

一方、ガスや電気による給湯器の高効率化が進み、太陽熱温水器が熾烈な競争にさらされるようになったのは、周知のとおりだ。

太陽熱と ガスや電気を併用 高効率の 給湯・空調を実現

約40年ものあいだ、
ソーラーシステムに取り組んできた矢崎総業の
ソリューションがあらためて注目されている。
地域特性や環境条件に応じて、太陽熱と電気、
ガスなどエネルギーのベストミックスを追求。
未来社会を先取りするソーラーシステムを
開発・提供する。

ところが、ここにかけてCO₂排出量の大削減が課題となっており、太陽熱利用があらためて注目され始めている。矢崎総業・環境エネルギー機器本部の庄子努部長は、「家庭から排出されるCO₂は、年間約5トに達します。政府目標どおりの排出量削減へのハードルは相当に高いと考えられます」と語る。

矢崎総業では、約40年に及ぶ太陽熱利用技術の蓄積を生かし、電気やガスと併用する給湯器一体型を発表してきた。ガス機器メーカーと開発した「エコソ



最新の太陽熱集熱器は薄型で高効率。屋根への取り付け後も、住宅の外観を損ねない

デザイン性にも配慮し 各方面から 好評価を獲得

「太陽熱集熱器は、屋根への負荷軽減とデザイン性にも配慮しました」と明かすのは、矢崎資本源・環境システム開発センターの頓宮伸二副センター長だ。従来の集熱器に比べ狭小屋根にも取り付け可能な小型・軽量化とデザイン性の向上を図った。屋根への設置方法も直付け式としたため、施工後の外観はすっきりと美しい。集合住宅向けにバルコニーに設置できるシステムも今春、リリースした。

「消費者の環境機器への関心が高まっていることもあり、ハウスメーカーや工務店などから高く評価されています」（頓宮副センター長）。福祉施設の給湯やビルの空調にソーラーシステムを活用する事例も増えている。

庄子部長は、「地域やライフスタイルに合ったエネルギーを選択できるインフラを整備することが、地球環境保全と快適な暮らしを両立することにつながる」と考えています。



矢崎資本源
環境システム開発センター
の
頓宮伸二副センター長

来るべき低炭素社会に求められるのはエネルギーのベストミックスだ。電気やガスはもちろん、太陽熱や木質ペレットなど、すべての熱源をエネルギーとして空調や給湯に有効活用できる技術を誇る矢崎総業への期待は大きい。

問い合わせ先

矢崎総業株式会社

〒108-8333 東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 17F
http://www.yazaki-group.com